

久坂 葉子 (くさか ようこ)

昭和6(1931)年～昭和27(1952)年

本名は川崎澄子。「ドミノのお告げ」が芥川賞候補になる。作家として将来を嘱望されたが「幾度目かの最期」を残し、自ら命を絶つ。

神戸文学館



神戸最古の木造教会建築の元関西学院チャペルを活用し、神戸ゆかりの作家たちの文学資料や愛用品などを紹介する。

神戸市灘区王子町3-1-2
☎078-882-2028、10:00～18:00(土日祝9:00～17:00) 水休



「神戸のまちとの関わりを紹介しています」

多くの作家が活動した神戸。それぞれの作家たちが生きた時代の写真をまじえて解説しています。



館長 水内 眞 さん

読みたい一冊

伝説の女流作家、久坂葉子の代表作である表題作をはじめ、死の寸前に書き上げた「幾度目かの最期」などを収録。勉誠出版。



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

みなと神戸の
ロマンティックビューを楽しもう。



神戸のパノラマビューを楽しみたいのなら、トアロードからほど近い奥再度ドライブウェイに向かうのがオススメ。ピーナスブリッジの展望台からは、昼間なら眼下に美しい港と市街地が広がる。1000万ドルといわれる夜景もロマンティックだ。

ピーナスブリッジ
神戸市中央区
諏訪山町
P有



新旧のビルが美しく調和する
旧居留地はおしゃれな神戸の
代表エリア。

トアロードを南に下ったところに旧居留地がある。ヨーロッパの近代都市計画をもとに形成された美しいまち並みは、大丸神戸店などを中心に大人の女性たちを魅了し続けている。



©一般財団法人神戸観光局

市内唯一の日本庭園、
相楽園。

重要文化財の船屋形や異人館の旧ハッサム邸がある。久坂はこの近くで生まれた。



久坂がよく通った
神戸回教寺院。

昭和10(1935)年に創建された日本初のイスラム寺院。現在の「神戸ムスリムモスク」。久坂はトルコ人の音楽家から音楽理論を学ぶため、ここへ通っていた。無料で見学できる。

神戸ムスリムモスク
神戸市中央区中山手通2-25-14
☎078-231-6060
10:00～17:00



三宮から元町にかけて、まちを歩きながら、久坂は何を感じたのだろうか。



上から三宮センター街、中が元町商店街、下が三宮から元町のJR線の高架下商店街。それぞれ個性が異なる商店街だ。

川崎家の菩提寺
「徳光院」に久坂は眠る。



名勝地の布引山を借景に、明治39(1906)年に開設された臨済宗の寺院で、川崎家の菩提寺。兵庫県最古の多宝塔を持つ。大きな観音像の台座、半円形のドームの下に久坂も家族とともに眠っている。最寄りの駐車場に車を止め、散策しながら訪ねよう。

徳光院
神戸市中央区誓合町布引山2-3 ☎078-221-5400

元町の喫茶「神戸エビアンコーヒー」。
レトロなお茶時間でひと息。

久坂も三宮や元町の喫茶店で仲間と語り合い、アルバイトでウェイトレスをやっていたエピソードもある。そんな時代の雰囲気味わえるのが昭和27(1952)年に開店したこの店だ。元町商店街の入り口付近。アルコールランプを使ったサイフォン式は当時のまま。懐かしく心地いい時間が流れる。



神戸市中央区元町通1-7-2
☎078-331-3265
8:30～18:30(日祝は9:00～18:00) 水休

かつて神戸に「幻の作家」と呼ばれた若き久坂がいた。
神戸は慶応3(1868)年の開港により、西洋文化を受け入れて発展したまちだ。外国人たちが住んだまち北野、外国商館が立ち並んだ居留地、そのふたつを結んだトアロードなど、まちを歩けば港まち特有の開放的な空

気とともに、古き良き時代の面影が色濃く残っている。
そうした神戸に昭和6(1931)年、ひとりの女流作家が川崎重工業の前身川崎造船の創業者である川崎重工業で生まれた。久坂葉子だ。名家の子女、何不自由ない環境、だからこそその反発からか久坂は学業でも私生活でも自由で奔放な振る舞いを見せる。学校を中退し

てまで進んだピアノの道も早々とやめ、つぎは文学を志す。当時、阪急「六甲」駅近くに住んでいた作家の島尾敏雄を訪ね、その後島尾とともに同人誌『V I K I N G』を立ち上げた富士正晴に師事する。19歳のときの作品『ドミノのお告げ』が芥川賞の候補に挙がり、それ以来小説や戯曲を次々に発表している。あどけなさが残る夢見る少女が見せる、大人



かつて、坂道の北端に外国資本の「トアホテル(日本表記で東亜)」があったとされる。



いま「神戸北野ホテル」が建つ
場所に久坂の家があった。

神戸の山手から旧居留地を結ぶならかな約1キロの坂道、トアロード。相楽園近くにあった生家がここに移った。現在は「世界一の朝食」として話題を呼んだ神戸北野ホテルが建っている。

神戸北野ホテル
神戸市中央区山本通3-3-20 ☎078-271-3711

びた仕草や文章。強さともろさ、大胆さと繊細さ。ひとことでは語れない魅力を持った作家だった。
かつて家がなかったトアロード辺りから神戸の中心である三宮や元町を歩こう。このまちで久坂は何を見て、何を感じていたのだろうか。絵画、俳句、短歌にも才能を見せた久坂が作品に追い求めた純粋な思いを、戦後の混乱が許さなかったのかも知れない。
芥川賞候補となり、将来を期待されながら、そのわずか2年後の大晦日に21歳の若さで自ら人生に終止符を打った久坂は「幻の作家」とも呼ばれている。
六甲の山々に見守られながら、異国文化を受け継ぎ花開いた港まち神戸。ここで、久坂は一瞬のきらめきを放ち、流れ星のように飛び去っていった。



トアロードを北に向かえば
異人館のまち北野町。

北野町には、明治時代から外国人たちの居住地としてさまざまな洋風邸宅が建てられた。地域内には約40棟の異人館が残り、山本通は別名「異人館通り」と呼ばれている。

きらめく流れ星のように



くさか ようこ
久坂葉子と神戸

[兵庫県]